

武石地域協議会 会議概要

- 1 審議会名 武石地域協議会
- 2 日 時 平成 24 年 1 月 24 日 午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分まで
- 3 会 場 武石地域自治センター 第 1 会議室
- 4 出席者 新井繁雄委員、上野正司委員、大沢春樹委員、北沢賢二委員、清住章雄委員、清住洋子委員、越 博徳委員、小山洋江委員、下村孝明委員、滝沢由美子委員、竹内利通委員、橋詰真由美委員、松代典之委員、森美由紀委員、柳沢裕子委員
(欠席 5 名) 柿畠祐子委員、小宮山昌武委員、中嶋和夫委員、樋澤たえ子委員、松井幸夫委員、
- 5 市側出席者 伊藤地域自治センター長、木藤地域振興課長、山口市民生活課長、牛山産業観光課長兼建設課長、近藤健康福祉課長、掛川武石教育事務所長、児玉地域振興課長補佐 (欠席 0 名)
- 6 公開・非公開等の別 公開
- 7 傍聴者 0 人 記者 1 人
- 8 会議概要作成年月日 24 年 2 月 14 日 作成部局課名 武石地域自治センター 地域振興課

協 議 事 項 等

- 1 開会 (滝沢副会長)
- 2 会長あいさつ (清住会長)
- ①とても寒い日が続いている。②1月18日の丸子・武石地域議会議員、地域協議会委員の懇談会には、大勢の委員にご出席いただき感謝している。隣の町や議員と交流していくことの大切さを感じた。今後も続けていただければありがたい。③今回は、これまで協議してきた雲溪荘についてのまとめをしていきたい。今期はあと2回であるが、実際に協議ができるのは今回が最後と思う。協議を深めていただきたい。いずれにしても今期の内に大きな方向は決めていきたい。
- 3 センター長あいさつ (伊藤センター長)
- ①先日の丸子・武石地域議会議員、地域協議会委員の懇談会の折、雲溪荘のバス導入について臨時で協議いただいた。基金の使途も含め貴重なご意見をいただき感謝している。今後、市の予算協議の中でご意見を活かしていきたい。②地域協議会は4月で改選を迎えるが、3期の皆さんは規定により退任となるので、3月をもってこの協議会の半数は変わることになる。今年も協議会にとって節目の年となる。1期、2期の委員の皆さんは是非お残りいただきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。③本日は、雲溪荘についてご協議をいただくが、今期の委員会において雲溪荘のあり方に関する方向性を出していただければありがたい。
- 4 協議事項
雲溪荘の今後について
【資料説明】(事務局)
- これまでに実施した協議のまとめとして、①利用者数や収支の資料②市の財政や行政改革、基金の活用を考えた上での武石地域自治センターの考え方③これまでの協議の中で委員から示された雲溪荘のあり方を12項目にまとめたもの、以上の資料を事務局が作成、説明した。
- 【主な質疑・意見】
- (会長) これまでの協議を基に雲溪荘のあり方の具体例を挙げてもらった。また、資金面や行政改革、武石地域自治センターの考え方も示していただいた。地域協議会は住民の意向を反映させる機関であるから住民の気持ちを考えて協議いただきたい。この問題は、賛成反対を決めるのではなく、また多数決で判断するものでもない。今日は委員全員の意見を聞きたいので、こちらから指名させていただくこともあるがよろしくお願ひしたい。それでは協議に入りたい。
- (委員)資料にある雲溪荘のあり方は、すべてがいちいちもつともだと思う。ここからどれを選ぶにつけても状況は厳しい。温泉は自噴してないので継続にはお金がかかり厳しいものがある。雲溪荘もうつくしの湯も同じように守っていくのは難しいかなと弱気に考える。
- (委員)市として予算をつけることは難しい。いい温泉だとは思いますが自分自身これから利用していくことは考えられないし、住民にも説明が難しい。雲溪荘はなくなってしまうか大手のホテルチェーンなどに知恵

を借りかして、公金を使うべきではないと思う。

(委員)施設を福祉施設としてとあるが、何か考えはあるか。

(担当課長) この資料は、1年間の協議の中で委員の意見をまとめたものである行政として検討をしている状況は無い。しかし、全国的に旅館業の経営が厳しい中で、雲溪荘の今後の方向として社会福祉法人や福祉施設が温泉を利用している例があるため、検討項目に加えたということである。

(委員)この資料だけで考えるのではなく、地域の雇用の場として雲溪荘は残すべきでないかと考える。基金の使い方に制約があり自由に使えない状況があるなら、雲溪荘のために基金を使うことを住民の皆さんに理解してもらえないだろうか。資料には雲溪荘の利用者は市外、県外の人が多く、市民以外の人のために市の税金を使うべきでないという記述もあるが、地域の外から人を呼ぶことを考えるべきで、雲溪荘を残すということで考えていくべき、効率化や損得で考えるべきではない。儲からないからなくすということなら公務員は儲けていないから必要ないということになる。雲溪荘はこの武石地域に残すべきと思う。いろいろネックはあるがそれを一つひとつクリアしていけば道は開ける。指定管理者になってくれる団体を探すという努力も必要。

(委員)継続できるものならしてほしい、ということから継続を考えたい。しかし、具体的に継続に関する費用の資料が出ると考えてしまう。まず存続させて、いろいろ努力して無理だったらやめることを考えるということだろうか。

(委員)雲溪荘は変わってきていると感じる。それをPRしなければと思う。武石地域として雲溪荘をなくしたら何が残るか、地域の農業者や各種団体が話し合いをしたいとき、身近なところに泊まりながらディスカッションできるというのが大きなメリットだと思う。継続費用などの数字を出されれば(状況が厳しいので)難しく考えてしまうので、このような数字は出さないで考えるべきだ。数字を見せられればやめてしまえという考えになってしまうので数字を出さないで可能な限り存続を考えるべきと思う。また、うつくしの湯との関連は別の施設なので考えないほうが良い。歴史もあり、愛着もあるのでわれわれの年代がいるうちは廃止をしないでほしい。経営や数字は関係なく継続を考えるべきで、なくすべきではないと思う。

(委員)存続のためのいろいろな改善案を考えてきたが、この数字やグラフを見ると頭の中が真っ白になってしまって考えられなくなってしまった。基金は現実的には雲溪荘に使うのではなく、もっと住民生活に必要なものに使うべきと思う。

(委員)自治センターの考え方の欄や、グラフや経営の現実を見ると、何とかして残したいと思っていたが、残したいといえなくなってしまふ、この数字で何とかしていかれるのだろうかと思ってしまう。この状況の中で、継続するにはみんながその気になって本気で利用を増やしていかなければとても難しいと思う。残したいが厳しいと思ってしまう。

(委員)いくら黒字の旅館でも何もなくて客が来るというものではない、地域のものだから、みんなが使うようにすればいいが、20代の人に聞くと、わざわざ雲溪荘に行く気はないといわれる。何か人を引き付けていく努力、地域ならではの魅力を作っていくことが必要ではないかと思う。

(会長)これまで協議をしてきたが、いつも同じ内容になってしまう、資料にある11のあり方について、具体的に私はこうしたいという意見を出してほしい。

(委員)H26までは、事業団が指定管理を受けていて、市からの補てんがあるということだから、26年以降に検討することでもいい、あと3年間は大勢の人に来ていただいて向上と改善を目指し、そこまでやってだめだったら潔く振舞い酒は飲まない(市の補てんは受けない)としたほうが良いと思う。

(担当課長)23、24、25の3年間なので、26年の4月には新しい団体の運営を始めるようにするという事。それに間に合わせるに、まったくフリーで考えられる時期は、来年の2月ぐらいまでと思う。

(委員)現在受けている事業団は、職員の意識改革や経営改善が必要、そのあと地域予算を入れて積極的に継続させていくと地域協議会で決めたら、市に積極的に働きかけていくことができる。雲溪荘以外の必要な事業は、基金を使わなくても一般財源で対応できる。積極的に我々が考えれば存続になっていくと思う。

(担当課長)受託団体が適切かという意見があったが、まず事業団への受託ありきでなく、地域の中の違う団体の受託も考える必要があると思う。受託団体もこんなところがいいというものがあったら合わせて協議してほしい。

(委員)新聞に信州せいしゅん村が、鹿教湯を使って新しい事業をすとあった。記事を見て、鹿教湯でなく雲溪荘でできないものかと思った。地元で受ける施設があればそれを使っただけ努力が必要と思う。

(課長)現在事業団とせいしゅん村で話し合いがもたれている状況である。

(委員)この資料は厳しいことが記載されているが、現実を現実として受け止めることが必要、雲溪荘がなくなったら、武石の住民がまとまっていく拠点がなくなってしまうと思う。雲溪荘のことをフリーで考えられる時期はあと1年と聞くと今日の会議はとても大切に思える。これまで出された意見で、雲溪荘を

守っていくという考え方がみなさんにあるのはうれしいと思う。宿泊施設が難しいなら最初は日帰りでもいいと思う、だんだん大きくしていけばいいと思う。雲溪荘で農商工が連携して継続していけたらと思う。そのことで武石が輝いていかれると思う。武石のことをよく知るコンサルタントの先生におねがいで改善方法を教えていただき、それに沿ってやっていければいいと思う。

(委員)センターの考え方の欄を見ると、やめなければまずいなど思ってしまう。基金を投入すると修理や人件費で終わってしまいそうで考えてしまう。個人的な意見では存続させたい。それには、地域外の人の利用を増やすということだけでなく、まず、武石の住民がみんなで守っていくという姿勢が必要。雲溪荘を中心としてイベントを実施したことがないと思うので、何か考えたらどうか。

(委員) イベントはやったことがない。何もしなかったのがこういう結果を生んでしまったのかなと、元議会にいた者として反省している。損得ばかりでなく、イベントは何ができるかということを考えれば楽しいと思う。

(委員) かつて武石の旅館で大学の合宿をやっていた経過がある、地域の体育施設を活用して合宿に使えたらもっと宿泊者が伸びるのではないか。

(委員) 練馬祭で農産物を販売していると、練馬の人から雲溪荘に行きたいことを楽しみにしていると多く聞く、その人達につぶれたとは言いがたい。

(委員) 地域だけを対象として立て直す方法を考えるか、国内で立て直すか、グローバルに立て直すかで、方法は違う。長野県はかつて高速など東京などから地理的に有利だった。今は格安航空などができて遠くへ行くようになった。空路のアクセス、松本空港の利用を考えるべきと思う。経営の情報は現実だから出してもらい、そこから武石の人に知ってもらわなければいけない。人が多く来ていただくことが大切。

(事務局) 資料の「地域自治センターの考え方」は、雲溪荘をなくすことを前提としているのではない。利用が向上し経営が改善してくれば継続も考えられるという考え方。そのためには、市民の皆さんをはじめ雲溪荘に関係する団体や行政が協働して雲溪荘の今後のあり方を広く考えていくこと、それには、たとえ厳しい内容でも、市民の皆さんに現実を伝えていくことが必要と考える。情報を伏せたり隠したりして出された結論は支持されないと思う。

(委員) 雲溪荘は、現在はさびれている、それは人が来ないから、そして、人が来ないからまたさびれる、の悪循環になっている。とにかく人が来てくれることを考える、無料開放でもいいから人に来ていただくことを考えるべき。

(会長) 市民協働で、地域のみみんなに知恵と力を出してもらって残していくということを考えていかないと状況は好転していかない。

(委員) 指定管理に公社が手を上げないということなら、雲溪荘の将来は、廃止するか、どこか別のところを探すか、ということに集約できないか。直して誰かに貸すか、別の指定業者を探すか、このまま壊すか、という選択しかなくなってくるのではないかと思う。

(会長) 指定管理は、そういうことに通じた方々にお願いして探せば、不可能ではないと思う。

(委員) 今の公社(事業団)が受けないと決まったわけではない。今働いている人が自分たちでやりたいという気持ちがあればその可能性をまず考えるべきだ。

(担当課長) 事業団がやりたくないということだけでなく、市民が使う施設に税金を投入することは理解されやすいが、市外の方が中心に使う旅館業に市税を投入することは難しいのではないかと、という考え方から市がお金を出さなくなったら事業団は経営をしていくことは難しい状況になるということ。

(委員) 市外の方が使わないから、お金を投入することはできないというのはおかしい。観光や他のイベントに、市外の方が来るのは当たり前で来ることで相乗効果がある。

(会長) 丸子・武石選出議員と地域協議会委員の懇談会の中でも、議員から、雲溪荘を赤字だからつぶすというのは考えないほうがいい。赤字でやめるなら福祉は何もできない。赤字でも人が集まり、それが地域によい影響があればいい、赤字だからなくすという考え方はしないほうがいい、と言われた。どういう方法をとれば残して行かれるかそれを考えてほしい。

(委員) イベントをしかけてやっていくことによって、人のつながりや違う状況が生まれてくる、行動して雲溪荘の中に入っていくことで見えてくることもある、イベントなどを皆さんでしかけてやっていけたらいいと思う。

(委員) 5年から10年先のことを考えると、何を捨て何を残したらいいか考えてしまう。少子化になり、財源が少なくなる中で、雲溪荘にお金をかけるのではなく、もっと近いところで、もっと知恵を絞って地域づくりとなることを考えてお金を使うべきと思う。最小限の残し方をして、うつくしの湯のようなところで違ったものをアピールしながらイベントをやっていたらと思う。知恵を絞って、真剣に考え、私財を出すこともいとわず考えていくべき、必要だからといって税金をポンと出すことはないと思う。

(委員) 基金を使ってもいいのではと思う。基金が使いつらくなって使えないのなら使うところで使ってしまうでもいいと思う。そのほかの必要なものは一般会計で出してもらえばいい。

(会長) 時間が無くなってきた、きょう結論を出すというものではない。1年間の議論を基に、方向性を

出して、次年度へつなげたい、賛成反対で多数決で決めることにはしないが、全体的には存続という意見が多いと思う。11の存続例の中から選ぶということにはならないが存続を基本にして今後において議論を進めるべきとおもうがどうか。

—— 同意の意見多数 ——

(委員) 意義あり、基金は雲溪荘に使うのではなく、例えば診療所の充実につかうようにするなど、基金は雲溪荘で使いたくないというのが私の考え方。

(会長) 基金を使うのなら反対だというご意見だが、基金は早急に使ってしまえということではないと思う。基金なり一般会計なりなんらかの方法で残すということを基本的な考え方にして、次期の委員の皆さんに申し送るということで事務局にまとめてもらい、次回その内容を協議するというところでよろしいか。

—— 一同了承 ——

【協議概要】

存続、用途変更、民営化、廃止を含めて検討など、あり方に関する意見や、基金投入の是非、基金の使い道など、様々な意見が出された。次回までに協議の内容を踏まえて一定のまとめをすることで了承された。

【報告事項】 番所が原リニューアルオープン記念イベントの実施結果について

【資料説明】 (事務局)

【その他】

①丸子地域協議会「地域の産婦人科医療を考える研究会」に参加している委員から時期の担当委員の選任に関するお願い

——次期に委員の中から選任することで了承——

②地域予算を活用した、地元出身画家の作品購入について

——次期の課題とすることで了承——

【次回日程】

協議の末 2月20日(月)と決定する。

5 閉会 (滝沢副会長)